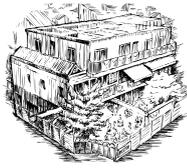


日本聖公会

# 大阪教区報



日本聖公会  
大阪教区総務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第500号 2022年7月20日発行 +++++

## 永遠に私たちと

### 一緒にいてくださいます

執事 ウイリアム ヒューム ユーワン

私は25年以上前にイギリスから来日しましたが、聖職者としての経験はあまり長くありません。日本に来た時、私はこんなにも長く日本に滞在するとは思いませんでしたし、科学者から聖職者に転職することは全く想像していませんでした。

人生の半分以上を日本で過ごしていますので、イギリスのことを段々と忘れてきています。イギリスよりも日本での生活の方が長いので、当然と言えば当然かもしれません。恐らく、外国に長く住んでいる方々は同じような経験があると思いますし、その国に馴染むかどうかは人格的同一性（パーソナルアイデンティティー）など関係があります。

しかし、困ったことがあります。なぜなら、度々私は人からイギリスについての色々

な質問、それは歴史から現代事情までの幅広い事柄について聞かれるのですが、いつもそれらの質問に答えることができず困ってしまうからです。ですので、私は最近イギリスの電子新聞を読むように



なりました。この新聞を読んでもみると、一つのことには驚きを隠せませんでした。イギリスの社会の変遷、つまり私が記憶している70年代〜90年代前半のイギリスとは違って

るといふことが目につくようになり、「時代が変わった」と思いました。

教会の中でも、時代の流れのようなものを感じます。どの国においても、教会は社会の中にあり、信徒は社会の中で生活をします。社会の流れが教会に入ってきます。

大昔から現代まで続いていくが全く変わったことがないような伝統はありませんが、私たちの絶えず変わりゆく世界の中で、イエス様は私たちに永遠的な、つまりどの時代においても変わることのない教えをどのよう

に教えられたものでしょうか。

そのような意味でヨハネ福音書のイエス様の弁護者についての教えは、私たちにとても重要な教えだと思えます。特に、この弁護者は永遠に私たちと一緒にいるだけ

でなく、私たちの中にいます（ヨハネ14:15-17）。弁護者は真理の霊、または聖霊とも呼ばれていて、イエス様がいないときに、イエス様の役割を引き継ぎ、私

を導いて真理をことごとく悟らせてたり（ヨハネ16:13）、イエス様について証しをしたりします（ヨハネ15:26）。現代において、私たちは沢山の不安や悩みがありますが、どのような苦しい状況の中でも聖霊は私たちと一緒にいてくださるので、色々な苦難を乗り越えることができるということを感じましょう。

イエス様がいないことは弟子たちにとって、信じられないような状態であり、彼らには気が落としました。けれども、イエス様が説明されたように、イエス様の名によって遣わされる聖霊は、イエス様と「別の弁護者」で、イエス様の継承者のような方です。で、彼らは心配する必要がありません。ですので、私たちは弟子たちのように前向きな気持ちで、絶えず変わっていく世の中にクリスチャンとして直面することができるのです。

（堺聖テモテ教会牧師補、桃山学院教育大学チャプレン補）



# ヤコブ 宇野徹主教 逝去記念式

## 6月18日(土)逝去者記念式が 川口基督教会にて開催される



去る3月8日、元北関東・大阪教区主教ヤコブ宇野徹主教は83年の生涯を全うされました。6月18日(土)午後1時から川口基督教会において「偲ぶ会」として逝去記念式が開催されました。式中北海道教区退職主教植松誠主教が説教をされ、その内容を割愛して掲載いたします。

宇野主教の魂の平安をお祈りいたします。

ヤコブ宇野徹主教  
逝去記念式 説教(要約)  
植松誠主教

本日、ヤコブ宇野徹主教様のご逝去記念式に際し、説教

をさせていただくということ  
を、私は不思議な神様のお導きであると思い、畏れの念を  
禁じ得ません。

今、現役生活を終え、これまでの自分の人生のいろいろな場面で出会った方々のことを思い出すことがよくあります。それらの出会いの中には、これまであまり意識しなかったけれども、今になるとても印象深く心に迫ってくるものや、あまり思い出しにくい辛い悲しいものもあります。しかし、今、自分の歩んできた道を振り返った時、何だかんだと言いつつも、私の存在は、これらのいろいろな出会いの中で形作られ、少なからぬ影響を受け、また私の知らないところで多くの方々に祈られてきたその集大成であると思わされます。一つひとつの出会いや関りを何一つ無駄にすることなく主は用いてくださり、恵みに変え、今の私にまで導いてくださったことは感謝に堪

えません。さる3月8日、主のみもとに召された宇野徹主教様との出会いや交わり、そして同労者として共に働いたことを通して、教えられたこと、学ばされたこと、影響を受けたことがどんなに大きなものであったかを思い知らされます。

聖職として生きるということとは、十字架上のキリストを仰ぎながら、そのキリストのみ跡を踏むことです。人々のために自分の命をお捧げになったキリストの苦難を自分も負うことです。十字架上のキリストに、人々はあざけりの言葉を浴びせ、「もし、お前が神の子なら、救い主なら、十字架から降りて来い」と叫びました。その言葉は今私たちの聖職者としての生き方の中でもよく聞きます。「十字架の苦しみの中にいて、いたい何ができるのか。十字架から降りて、もっと自由に、お前のしたいことをしたらどうだ」と。イエス様は確かに神の子でありキリストでした。何でもお出来になる方でした。しかし、十字架から降りて行かなかった。御父のみ旨、すなわち神の愛の計画は、

あの時キリストが十字架から降りることではなく、十字架の苦しみに耐え、十字架上で死ぬことにありました。首座主教であった宇野主教のそばで私は主教様の悩みと苦しい胸の内を想像しながら、敢えて十字架から降りようとされなかつた主教様に真の聖職者の生きざまを見る思いがしました。

のですから、神の与えたもう棘は特別に痛いのです。この痛みさえなければ、この苦しみをさえなければ、もっと良い宣教ができるのに、もっと喜びを人に伝えられるのに：と、パウロの足元にも及ばない私でさえも思ってしまうのです。

大阪教区で執事、司祭として働かれた時、北関東教区の主教として働かれた時、そして大阪教区主教として働かれた時、きつと何度も何度も宇野主教は「痛み」を感じられたはずで。特に主教となられて、大きな使命と責任を負わされてからの「痛み」はいつも主教様を苦しめたことと思います。しかし、使徒聖パウロのような人でさえ、思いつかないようにとひとつの「とげ」が与えられたと記されています。確かに棘は痛い。それは毛抜きで抜けるような肉体的なことだけではなく、いつまでもいつまでも心に突き刺さる痛みなのです。主よどうぞみ心ならばこの「とげ」を取り除いてくださいと、パウロほどの人も折ったという

しかし、その痛みの中で、その痛みがあるからこそその今までに気付かなかった恵みがあったんだと気付かされる：そういう経験を積み重ねてきたのではないかと思ひ返します。神がパウロに言われた「わが恵み、汝に足れり」という言葉は、今までの信仰生活の中で、何度も何度も繰り返して響いてきた言葉ではなかつたかと思ひます。それは聖職だけではなく、信徒の皆さまにも、信仰を捨てたいと思ふくらい辛い中ほど、響いてきた神の言葉ではなかつたでしょうか。宇野主教様も、そのご生涯を通じて、たくさんの棘を与えられながらも、主の指し示す道を選び、そこを歩き通される中で、「我が恵み、汝に足れり」という



小職は現在まで4人の主教にお任せさせていただいたが、取り分けて宇野主教様とは特別に深い思い入れがある。その理由は色々あるがその一番となるのは執事と司祭の按手が共に宇野主教様から叙任された事である。また、宇野主教様が司祭按手を授けた最後

て幾多の困難の中、いつも主の御手の内に守られ、聖職としての召命の生き方を貫き通せたことに深く感動するので。宇野主教様がこれまでの司祭が小職であり、現役の教役者として残っている最後のひとりということに（誰も興味などありもしないことだが）、小職としてはいささかではあるが感慨深い思いを抱いてしまう。

宇野主教様から与えられたこの言葉の意味は、新執事に聖書を渡す際に便宜上書き入れられたお飾りのな決まり文句ではなかったのである。時効が成立する程の大昔の事なので正直に話すでしょう。小職が聖職候補生時代、腹に据えかねるような、すこぶる嫌な体験がずっと続いていたため、小職は熟考の末、生意気にも聖公会を辞めたいと申し出たのである。その理由を尋ねられ答えると、宇野主教様は怒りで赤面され目にうつつらと涙さえ浮かべながら「酷い話や。よく我慢したな。で

も、大丈夫や。僕が何とかするから、任せときなさい」と慰めてくださり、何度も「大丈夫や。大丈夫やから」と言って勇気付けてくれたのであった。あの時の宇野主教様の慰めとその後の配慮と助けがなければ、小職は今ここには居なかった。宇野主教様を恩師と呼ぶ理由はここにある。どんな障壁も隠することなく信念をもって突き進む気骨稜々たる主教としての姿に、濃厚な神の臨在を感じたのは小職だけではないはずである。霊的指導者であり慰めの僕として歩まれた教役者の手本である宇野主教様に今一番申し上げたいことは、「ありがとうございました」という感謝である。そして、心から「お疲れさまでした。天のみ国の神様のもとでゆっくりしてください」という願いである。

（守口聖オーガスティン教会  
牧師、桃山学院教育大学  
チャプレン）

# 「恩師、宇野徹主教を偲んで」

司祭 ヤコブ 松平 まつだいら いさお 功

2022年3月8日、主教ヤコブ 宇野 徹師父が逝去され83年の生涯を全うされた。そして、6月18日（土）午後1時から大阪教区主教座聖堂川口基督教会において「偲ぶ会」が催され、宇野主教様を慕う人々で会堂は一杯になった。

長きにわたって聖職として生きてこられたことを神様に感謝しつつ、それが可能となつたのは、そばでいつも主教様を支えて、そのご生涯を共に

あつた。噛み砕いて解りやすく簡単にこの神からの回答を言い換えるなら「大丈夫だよ。わたしが一緒にいるから」という意味である。

歩んでこられた奥様の喜ぶ皆さんのおかげでもあったことを覚えて心から感謝いたします。（北海道教区退職主教）

# 大阪教区婦人会昇天日礼拝

マリア黒川純栄

五月晴れの5月26日(木)午前10時30分から、大阪聖アンデレ教会にて大阪教区婦人会昇天日礼拝が開催されました。

司式をアンデレ磯晴久主教、説教を大阪聖パウロ教会牧師シモン原田佳城司祭が奉仕し、教役者9名、参加者90名が昇天日礼拝を献げました。

使徒言行録には、「十字架に架けられ3日後に復活されたから40日にわたって使徒たちに現れ、神の国について語られた」、またマルコによる福音書には、「弟子のかたくなな心をおとがめになった」と書かれています。



五月晴れの5月26日(木)午前10時30分から、大阪聖アンデレ教会にて大阪教区婦人会昇天日礼拝が開催されました。司式をアンデレ磯晴久主教、説教を大阪聖パウロ教会牧師シモン原田佳城司祭が奉仕し、教役者9名、参加者90名が昇天日礼拝を献げました。使徒言行録には、「十字架に架けられ3日後に復活されたから40日にわたって使徒たちに現れ、神の国について語られた」、またマルコによる福音書には、「弟子のかたくなな心をおとがめになった」と書かれています。

原田司祭は説教の中で、「福音書には、復活したイエスが神の子としての栄光・権威を受けたことと、目には見えな

に投げかけられました。最後に「聖霊降臨された喜びを父と子と聖霊のみ名によって感謝致します。」とお祈りされました。当日献げられた献金は、145,970円で大阪聖三一

教会建築資金のために活用されます。午後からは、大阪教区婦人会第98総会が開かれ、77名の参加者のもと2021年4月～2022年3月までの各部の活動報告と会計報告があ

日本聖公会婦人会  
第27(定期)総会開催  
ハンナ井上 恵美子

りました。総会参加者全員的一致で全ての議案は可決されました。「喜びをもって」を祈り閉会しました。(大阪聖ヨハネ教会信徒)



議案審議中の様子

教区婦人会の皆さまのご協力により、問題もなくスムーズに行えました。役員会一同より感謝とお礼を申し上げます。

(日本聖公会婦人会 会長 高槻聖マリヤ教会信徒)

### ペンテコステヴェイジル

#### (聖霊降臨前夕の祈り)

司祭 テモテ内田望

6月4日(土)の午後5時 から、大阪聖パウロ教会で第 14回ペンテコステヴェイジル(聖霊降臨前夕の祈り)が、日本



基督教団、カトリック教会、日本福音ルーテル教会、そして聖公会の4つの教派の共同司式で行われました。

コロナ感染拡大で3年ぶりの開催となりましたが、48人の参列者のもとに聖公会が担当しました。

説教者は、メキシコ人のトレスフリオ神父(クラレチアン宣教会 東日本管区日本代表、カトリック枚方教会神父)にお願いしました。フリオ神父は大変上手な日本語で、聖霊を「激しい風」、「炎のような舌」、「神の息」として

今の私たちとの関りについてお話しをされました。礼拝の中で、神の民の一致のため、ウクライナのため、コロナ収束のため、東日本大震災の被災者のために祈りが献げられ

ました。44,710円集まった信施は、「ウクライナの人道支援のため」に英国聖公会ヨーロッパ管区を通してお献げしました。(西宮聖ペテロ教会牧師)

## 原発フォーラムに参加して

イサク 寒河江 研司

今年の「原発のない世界を求める週間」(6/5〜6/11)に原発問題プロジェクトの主催で「オンラインフォーラム「原発はやめようよ」と題して、6月5日(日)と6月11日(土)の2回にわたりプログラムが開催されました。

者の会(Thanks Dream(サンドリ)の主宰として、国内外で講演を続け、災害による被災者・避難者・原発事故被害者の人権について訴え続けておられます。

第1日目は、公開プログラムで森松明希子さんを講演者にお迎えして、『原発からの命の守り方』『平和のうちに生存する権利』を手放さないために私たちができること』との題で講演していただきました。森松さんは、福島県在住中に東京電力福島原発事故に被災され0歳と3歳の2児を連れて大阪へ避難されています。東日本大震災避難

森松さんのお住まいだった郡山市は、避難区域外だったが、放射線による汚染はありました。そこから逃げるという決断は苦しいもので、ハードルの高いものでしたが、子供たちを放射能汚染から救う、被爆させないという強い思いで「自主避難」ではなく、「自力避難」したと語っておられました。森松さんのように、福島県外に「自力避難」された方々は各地にいらっ

生活が続いています。また、福島県の子供たちが、甲状腺がんの不安にさらされている事も話されています。11年間で300人に近い子供たちが甲状腺がんに侵されている、この数は異常なほどであると言われていますが、国は、原発事故との因果関係はないとしています。

事実を訴えること。そして、被爆したくない権利、被爆から逃れる権利を行使すると、あなた方の訴え、行為は、復興を妨げることで、国土の評価を不当に下げることだと非難されると聞き悲しくなりました。

2日目は、帰ることがまだ許可されていない地から避難を余儀なくされている方々の証言をお聞きし、グループディスカッションをし、分かち合いの時間をもたれました。

最も大切な命を守るための権利が脅かされています。子供たちを守るため、未来のために教会は何ができるのか。皆さんも考えてみてください。

(大阪聖三一教会信徒)



### 大阪教区関係教役者 8月逝去者記念聖餐式

8月10日(水) 10:30~

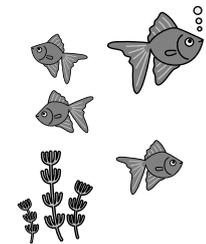
- 5日 主教 エドワード・ピカステス (1850~1897英)
- 8日 主教 ヘンリー・セントジョージ・タッカー (1959米)
- 9日 宣教師 アグネス・S・ウィリアムス (1970英)
- 10日 司祭 ヨハネ 桜井 猶次郎 (1945)  
主教 ペテロ 藤本 寿作 (1969)
- 11日 宣教師 シルビア・ルイス・ケンドール・ブッシュ (1966 英)
- 18日 司祭 関 翔 (1953)
- 24日 宣教師 キャサリン・アリス・サルヴァイン・トリストラム (1948英)
- 30日 伝道師 ルツ 中村 光尾 (1978)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分  
から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか  
わらず、どうぞ自由にご参加ください。



\*磯主教が多忙のため、夏期  
にまとまった休みを取って  
いただく。期間は7/25(月)~8/12(金)。

\*教区の今後についてのアン  
ケートへの回答方法、今後の  
用い方等について6/20(月)  
の教役者会で確認する。  
\*外国人教役者の日本語能力  
について、今後の受け入れ  
条件として日本語能力テス  
ト(JLPT)のN1合格  
相当とすること等の検討を  
行う。



- 7日 休暇
- 14日 富田林聖アグネス教会
- 21日 石橋聖トマス教会
- 28日 東豊中聖ミカエル教会

#### 主教巡回予定(8月)

- 川口基督教会 (4月28日・79歳)  
ハンナ 橋本 令子 (5月16日・93歳)  
ヤコブ 山下 基之 (6月4日・89歳)  
高槻聖マリヤ教会 (6月4日・89歳)  
リディア 高木 道子 (6月19日・87歳)  
アンナ 木村 和子 (6月5日・90歳)  
大阪聖ヨハネ教会 (5月31日・85歳)  
ルツ 山野 善子 (5月31日・85歳)

#### 逝 去 者

堺聖テモテ教会

○6頁 逝去者欄

誤↓高槻聖マリヤ教会  
正↓高槻聖マリヤ教会

お詫びして、訂正致します。

#### お詫びと訂正

#### 編集後記

大阪教区報も目出度く50  
0号を迎えました。思えば月  
一計算でも約41年、以前は  
隔月でしたから、実際には  
もつとですが、長い期間大阪  
教区報が続いてきたことは大  
変な喜びです。今後も教区の  
皆様に支えられ、1000号  
を目指して編集委員一同頑  
張って参ります。

今月号は宇野主教の記念  
式、日本聖公会婦人会総会な  
ど目白押しであります。

2ページに掲載致しました  
植松主教様の説教は、誌面の  
都合上、すべてをお載せする  
ことはできませんでしたが、  
全文は教区のホームページに  
掲載を予定しております。是  
非ご覧になっていただければ  
と思います。

広報委員長 金山

#### 【常置委員】報告 6/8 第11期

#### I. 主教報告及び諸報告

\* 新型コロナウイルス感染者は減少傾  
向にあり、各教会で制限を  
緩和する動きもある。

\* 6/15(水)~6/16(木)  
日本聖公会婦人会総会。

\* 6/18(土)故宇野徹主教の  
逝去記念礼拝と偲ぶ会。説  
教は植松誠主教。

\* 5/31(火)~6/2(木)に  
開催された管区総会の報告  
があった。首座主教には武  
藤主教が再選。

.....

.....

\* 大阪聖三一教会建築の工事  
代金の最終支払い期限が、  
1ヶ月延長され8月末と  
なった。

.....

.....

#### 【宣教局】

生涯学習委員会で、「子ども」  
「青年」「大人」の各プロジェ  
クトの企画を進めている。

.....

#### 【財政局】

会計委員懇談会を9月23日  
(金)大阪聖アンデレ教会で  
開催予定。

.....

#### 【連合男子会】

5/7(土)代議員総会が3  
年振りに開かれ、生野センタ  
ー

.....

の状況について呉光現総主事  
の講演があった。

#### 【婦人会】

5/26(木)昇天日礼拝、教  
区婦人会総会が大阪聖アン  
デレ教会で開催された。

.....

#### II. 協議事項及び主教諮問

\* 10月10日(月)生野センタ  
ー30周年記念礼拝との共同開  
催とする教区礼拝につい  
て、司式は武藤謙一首座主  
教、磯晴久主教の共同司式、  
礼拝後にシンポジウムを検  
討する。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....